

台湾観光協会江所長と味わう台湾茶



台湾観光協会は、台湾への観光誘致の為、1956年に設立された財団法人で、1970年東京に、1999年大阪にそれぞれ事務所を設置しました。それから50年近く、日本の方へ台湾の魅力を発信し続けています。さて、台湾の魅力と言えは、台湾茶を思い浮かべる方も多いと思います。台湾観光協会東京事務所の江明清所長は、自らを「茶人」と称する程の「茶通」ということで、台湾茶のお話を聞きに、同事務所にお伺いしてきました。

まず入って目に付いたのが、所長室の窓にずらりと大きさ順に並んだ急須（茶壺）。その前の応接セットの横には木の根風の美しい茶盤。くぼみを利用して、多種多様な茶道具を配置しています。この上で、温めるために茶器にかけたお湯等、余計なお湯を捨てると、ちゃんと下のホースを伝ってバケツに落ちる仕組みになっています。

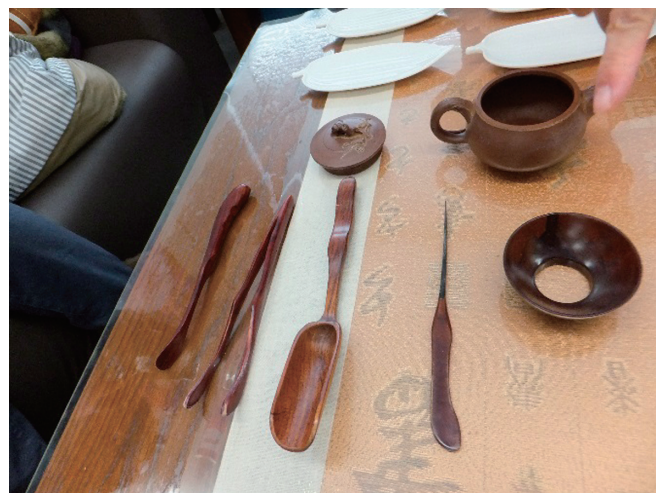
いただいたのは、順に阿里山烏龍茶の①浅い発酵で焙煎が無いもの、②3割程度の発酵で焙煎が中程のもの、③日月潭の紅茶でした。取り寄せて

いらっしゃる伊豆の「観音温泉の水」で淹れてくださいました。まず、茶則を使って、茶壺の五分の一程の茶葉を入れ、95度のお湯を注いだら、①は1分、②は5分経ってから細長い聞香杯に注ぎます。そしてまず、聞香杯を茶杯で蓋をしたら、素早くひっくりかえして聞香杯の香りを楽しみます。この時両手で包み込むように聞香杯を持って、香りを立たせるのがコツだとか。そして茶杯から一口口に含み、口の中でゆっくり転がしてとお茶を味わいます。①のお茶は、色はあまり無いのに香りが清々しく、味に甘みがあり、とろみのような味わいも感じました。②のお茶は、①より発酵度が進んでいるため、深い味わいと甘さも残っており、バランスの取れた味わいでした。三番目に戴いた紅茶は、葉が丸まっておらず、細長い形状。茶壺に入れて沸騰したお湯を注ぎじっくり10分程待ちます。色は、深紅と烏龍茶の中間



○写真「茶盤」

茶壺に湯をかけた際、湯を受け止める道具。お湯は、下に取り付けてあるホースに流れる仕組み。



○写真「茶道具」

奥から茶托（聞香杯と茶杯をおくもの）、茶壺、左手前から茶杓（茶葉を小さい茶壺にいれるもの）、茶挾（使用済み茶葉をつまむもの）、茶則（茶さじ）、茶通（茶壺の口に詰まった葉をつつくもの）、茶漏（茶葉を茶壺に入れる時茶壺に乗せてこぼれないようにするもの）

ぐらいで、渋みは全く感じられないのでミルクなど入れずストレート向きかと感じました。この台湾紅茶、日本統治時代に日本人がアッサム種を持ち込んで根付かせたとのことでした。これら台湾茶は、6煎ぐらいまで飲めるとのこと。茶杯が小さいですから。マグカップで無造作に飲んでいた事を反省しました。

これら台湾茶に合わせるのは、緑豆糕という落雁をしっとりさせたようなものとピーナッツを餡で固めたもの。当方からは桜餅を持って行ったのですが、苦みが少ない台湾のお茶には桜餅は甘すぎるようでした。ほろほろと崩れる緑豆糕をつまんで、お茶を一口。ピーナッツ菓子をつまんで更に一口。台湾の方は、こうして友人や家族と、何時間もゆったりとした時間を満喫しているのですね。お作法という緊張感の中で苦い抹茶と甘い和菓子を戴くきりっとした印象の日本の茶道とは、全く違う魅力があります。台中出身の江所長は、春茶の季節にご友人達と阿里山付近へ湧き水を求めてキャンプに行き、そこでお茶会をなさるとのこと。アウトドア+風流・・・なんと健康的なイベントではありませんか。日本のお父さん方にも見習って・・・いえ、広まって欲しいものです。

「茶人」としての江所長は、茶壺のコレクターでもあり、すでに600も所蔵されているとのこと。これら自慢の茶壺を茶人仲間と交換し合う楽しみも格別のように、奥様の目を盗んで、こっそりお買い上げされることもあるお茶目な一面もお有りです。沢山の茶壺をお持ちですが、シンプルな形が一番とのこと、この日も球体が美しい赤茶色の茶壺で供してくださいました。蓋の上から手のひらで包み込むように持って、しっくりくるものが良い茶壺だとか。そして、使えば使うほど、色つやが良くなるとのことでした。

今日も、江所長は、出番が無かった茶壺にお茶をかけては磨いてを繰り返し、慈しむように可愛い茶壺を育てているのでしょうか。そんな台湾を愛



○写真「所長」

直径5センチほどの小さい茶壺からお茶を入れる江明清所長。小さくても美味しく戴けます。

する江所長だからこそ、日本の皆さんに台湾の良さをお伝えすることができるのだと思います。台湾観光協会には各地の資料も揃っていますので、小さな台湾への旅を体験しに、足を運んでみては如何でしょうか。

台湾観光協会 東京事務所

台湾観光協会 東京事務所

電話 03-3501-3591

FAX 03-3501-3586

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-5-8
川手ビル3階

台湾観光協会 大阪事務所

台湾観光協会 大阪事務所

電話 06-6316-7491

FAX 06-6316-7398

〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満 4-14-3
住友生命御堂筋ビル6階

月～金 9:30～18:00 休日：土、日、祝日、台湾
旧正月元旦、双十國慶節（10月10日）